

令和5年8月28日

組合員 各位

全日本畳事業協同組合
事務局

古い畳の研究への協力依頼

平素は当組合活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

先日、独立行政法人 国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校 木原久美子博士（理学）よりご相談をいただきました。

博士は文部科学省の科学研究助成を受けて、日本独自の文化である畳やイグサの起源を遺伝子を使って調べるという研究を行っています。ご協力して頂ける方は、別紙に連絡先を掲載しておりますので、どうか宜しくお願い致します。

以下、木原博士より

古い畳（正確には主に畳表に着目しています）を集めていますが、古畳がなかなか見つからず困っている状況です。そこで古い畳に出会うチャンスが多い畳店さんに畳の収集にご協力いただけないかと願う次第です。

<必要な量>

集めた畳表から、原料であるイグサのDNAを調べて解析します。

DNAの解析は、新鮮な生のイグサの茎であれば数本でもDNAを取りだすに足りませんが、畳として経年変化したイグサの場合には、劣化の具合によって、少し多く必要な場合もあります。手のひらサイズでもそれ以下でも、またはどこか数本や、端の方を切るなどでも良いですし、もっと大きな4分の1の畳などでも構いません。（場合によっては年代推定のために畳床の藁をつかう場合も考えられますので、表だけでなく床付きで受け取れる場合もあります。）

<必要な情報>

畳をご提供頂ける場合には、現物と合わせてその畳の情報や写真等も頂ければと思います。集めています。

情報というのは、どこのどのような建物でいつ頃の畳かと言った情報です。例えば、千葉県の木造庄屋の1930年代ごろの畳、埼玉県のお〇〇寺の拝殿の1910年頃の畳、などといった内容です。

今回は畳「表」の方に着目しているため、表替えの履歴等、現物が何年前のものかがわかると良いです。(例：床は 80 年前と推定され、表は 2 度張り替えた形跡があり、現物の表は 30 年前に替えたもの、等)

畳屋さんの目にかかれば、使われている材料の様子や手縫い糸の状況から、年代や表替えの状況などを推察できるのではないかと考えます。

<どんな畳が必要か>

畳の起源や歴史の解析のためには、「いろいろな場所」の「いろいろな種類」と「いろいろな年代」の畳が、できるだけたくさん必要です。

数年をかけて研究を行う予定なので、今すぐたくさん集まらなくても、徐々に集めて蓄積しながら、遺伝子の解析をしていきたいと考えています。

予定されている畳替えなどがある場合にはその後まで待つことも問題ありません。畳はきれいである必要はなく、ボロボロでも解析可能です。

世界でも注目されている日本の和室文化の源をたどる研究に、どうかお力をお貸し頂きたくお願いする次第です。